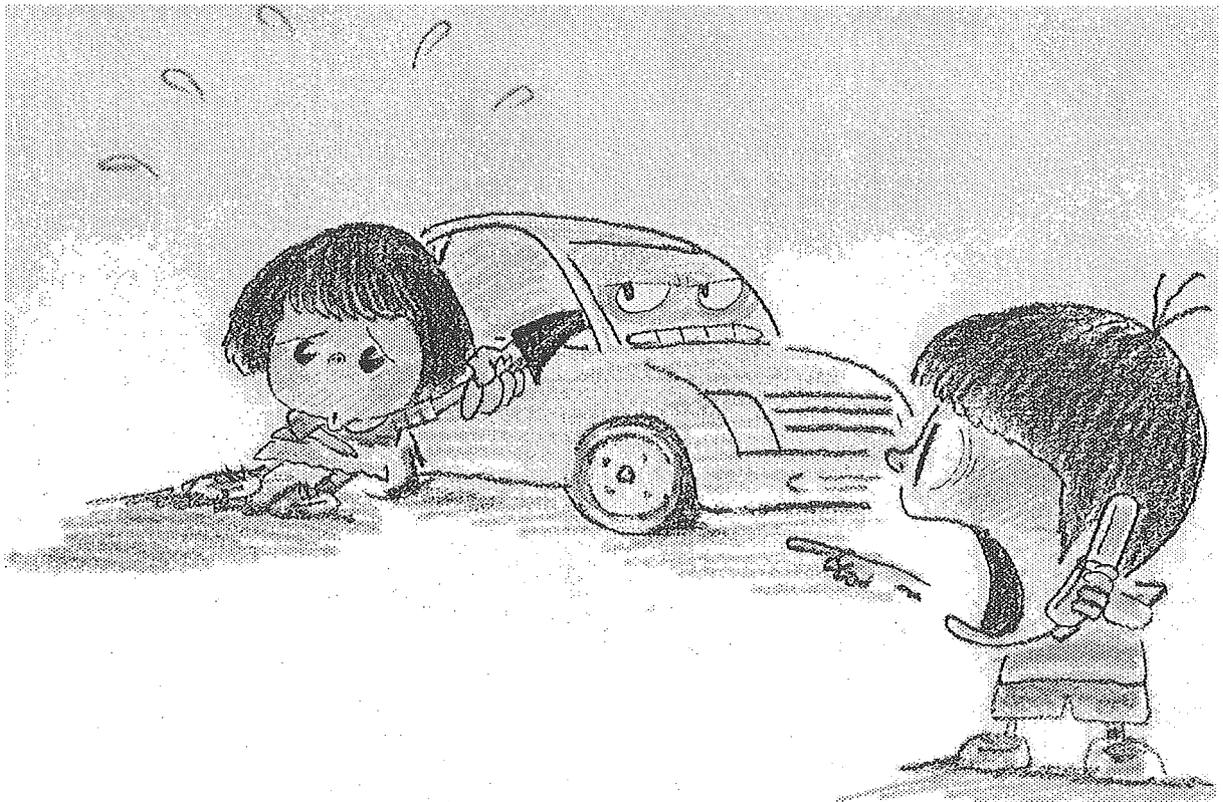


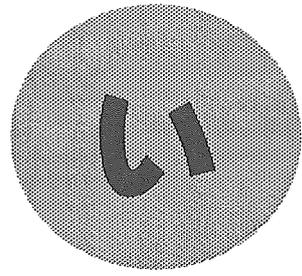
あ

あやしいな

そんなときは

すぐしらせる





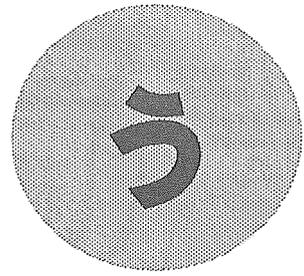
いつものみち

きまりをまもって

とうこう げこう

登校 下校

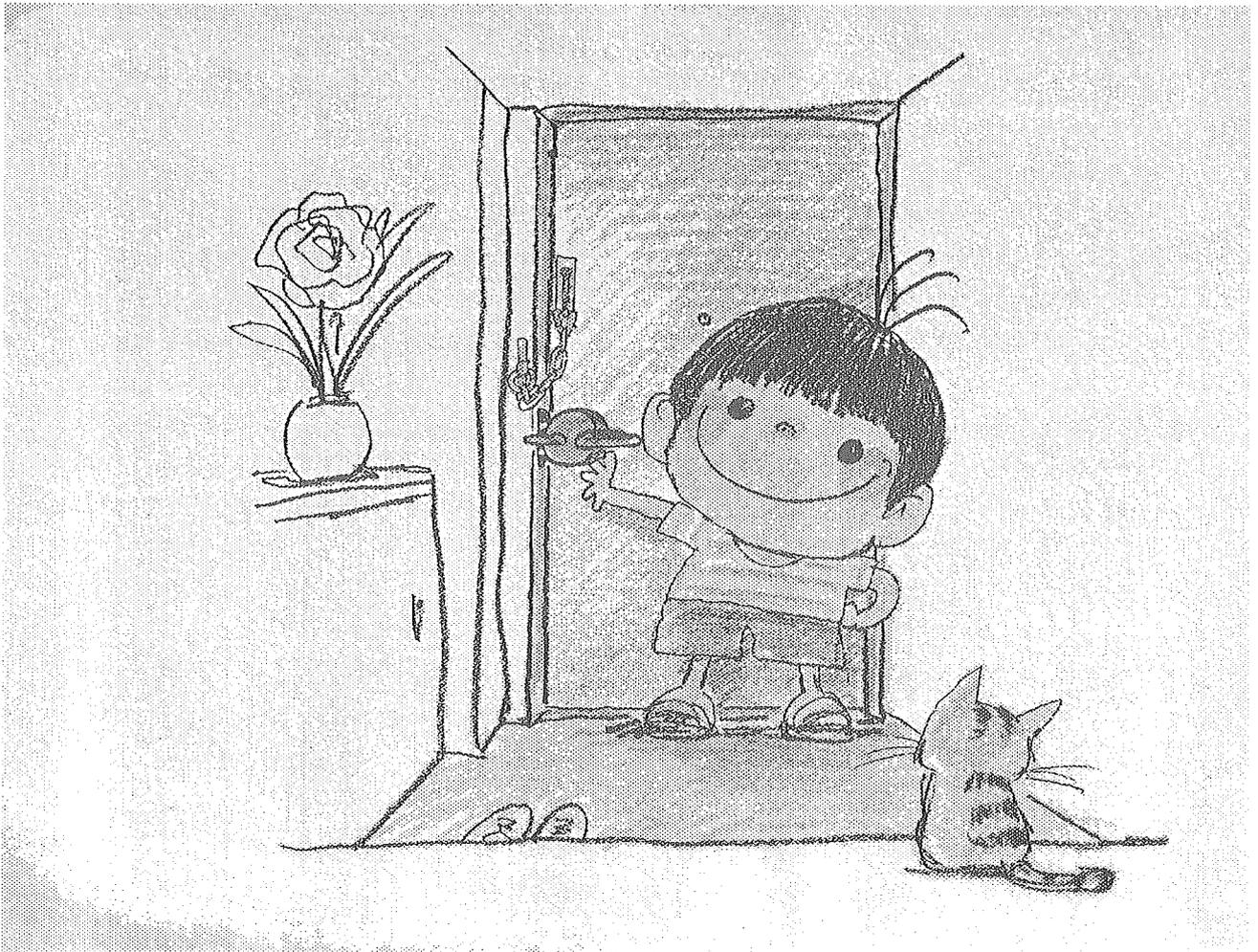


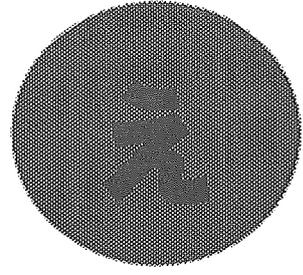


うちの かぎ

しつかりかけて

おるすばん





エレベーター

ひとりでのらない

あそばない



お

おしえない

なまえじゆうしよ

でんわばんごう



3. 国際事故防止会議の年表をめぐって

(はじめに)

近年、我が国は衛生・栄養状態の改善や医療の進歩などにより、疾病構造に大きな変化が起こり、戦後に多くみられていた腸炎や肺炎などの感染症による死亡数が著しく減少した。その結果、交通事故、窒息、溺水などの不慮の事故による死亡数がこれらの疾患による死亡数を上回り、最近では、小児期の死因順位の第1位であり、また、その他の年齢階級でも死因の上位を占めている^{1) 2)}。また、最近では回転ドアに挟まれた子どもが死亡する、公園の遊具で指を切断する、などの痛ましい事故や、エレベータ内や登下校中に誘拐される、学校に不審者が侵入するなど、子どもたちの安全を脅かす事件が発生している。

このような背景を受け、事故防止は少子化が問題とされている日本の子どもの健全育成の大きな課題として認識されるようになり、厚生労働省による国民運動計画「健やか親子21」検討会においても20世紀中に解決できずに21世紀に解決が持ち越された重要な課題としてこの問題を取り上げ、2010年までに事故による死亡率の半減、全家庭における事故対策の実施と同時に、全国の市町村で事故対策事業を行うことを目標に掲げている。また、次世代育成支援対策推進法の行動計画策定指針の中にも事故防止が取りあげられている。

しかし、日本では保健所、消防署、学校の保健授業等で事故防止を取り上げてはいるものの、保護者、医療関係者、教育関係者などの事故に関する知識や関心はまだ低く、また、これらの

指導現場で事故に関する、総合的かつ専門的な知識を持って指導できる者が少ないという現状がある。

そこで、隔年で行われている国際事故防止会議にて研究発表や討論されている諸外国の事故防止対策及び事故防止研究に関する動向等の情報を収集したので報告する。

(1) 国際事故防止会議の年表

- 第一回 World Conference on Accidents and Injury Prevention, スtockホルム・スウェーデン (1989)
- 第二回 World Conference on Injury Control, アトランタ・アメリカ合衆国 (1993)
- 第三回 World Conference on Injury Prevention and Control, メルボルン・オーストラリア (1996)
- 第四回 World Conference on Injury Prevention and Control, アムステルダム・オランダ (1998)
- 第五回 World Conference on Injury Prevention and Control, ニューデリー・インド (2000)
- 第六回 World Conference on Injury Prevention and Control, モントリオール・カナダ (2002)
- 第七回 World Conference on Injury Prevention and Safety Promotion, ウィーン・オーストリア (2004)
- 第八回 World Conference on Injury Prevention and Safety Promotion, ダーバン・南アフリカ (2006)

(2) 国際事故防止会議の年次推移
国際事故防止会議は1989年にスウェーデンのストックホルムで

WHO の主催による第一回大会が開催され、その席にて事故による負傷者・死者の多さを重要な問題としてとらえ、事故の予防対策、事故によるケガ・死亡の減少、事故が起きた際の対応策や社会復帰ができるようなりハビリなどの研究を参加国の研究者が協力して行い、安全な社会を作ろうという宣言書 (MANIFESTO) が打ち出された。

第一回大会の大会名に使用されている Accident という言葉は、偶然性が強く制御不可能で防止できないという意味の単語とて使われることが多い。しかし、事故に関する研究が進むにつれて、事故とは必ずしも「偶発的かつ不幸なできごとで避けることができない」というものではなく、事故が起きる状況や人間の発達段階や特性を理解し、対策を講じることで防止または減少させることが可能とであることが明らかとなってきたため、第二回大会からは、Accident がとれて、大会名が Injury のみに変更されている。

また、第一回大会においては Injury Prevention のあとには、Control という単語がついていない。これは事故の現状を把握し、事故を制御していくという考え方以前のごく初歩的にどのように防止していくかということに重点を置いた学会だったためである。

第二回大会からは、大会名に Control という単語がついていることにより、事故は偶発的に起きるものではなく、未然に防止可能で制御していくことができるという発想が付加された。これは、第二回大会の開催地であるアメリカ・アトランタにある国立事故防止センター (National Center for Injury

Prevention and control : NCIPC) の協力があったものと思われる。

アメリカにおける事故防止に対する国家的な取組は、1985年に外傷研究委員が「アメリカの事故」という報告書で事故問題の重要性を指摘し、連邦政府内に事故対策センターの設置を議会に呼びかけたことから始まる。4)。

また、1988年には米国科学アカデミーが「事故はいまこの国が抱えている公衆衛生問題のうち、最も理解が不足している問題であり、事故の研究によって死亡率や発生率は大幅に減らせるし、これらにかかる投資費用もさほど大きくはない」との報告を行い、4) それを受けて連邦政府は 1992年に米国疾病対策予防センター (Centers for Disease Control and Prevention: CDC) 内に NIPC を設立し、アメリカにおける国家的な事故防止研究を開始した。このセンターが他の政府機関、週、地方機関の公衆衛生局や研究機関と連絡を蜜に取りながら事故防止に取り組み始めたことにより、アメリカの事故防止研究は大きく進歩した。

第三回大会から第六回大会までは大会名が World Conference On Injury Prevention and Control に統一された。

私は第四回目のアムステルダム大会から参加しているが、第四回大会には 62カ国から約 900名の参加があり、国際的な事故防止会議としての認知度も高まりつつあった。また、開催地がヨーロッパということで、スウェーデンの Karolinska Institute が大会を主導し、各国の事故の現状やその対策、国としての取り組みについての情報交換や意見交換が積極的になされた。

第五回大会のニューデリーではこの

あたりから、Injury Preventionといわれる言葉とともに、第一回大会のMANIFESTOに記載されている Safe Communities という言葉が演題や会場で頻繁に聞かれるようになり、事故防止対策からさらに進んで安全社会への取り組みが広く話し合われるようになった。

第六回大会のモントリオールでは65カ国から1,200人を越える抄録が出されて、講演会やシンポジウム、最新の話題・情報と連携について、一般演題（ポスターと映像）の3つの部門に分けて討議された。また、一般演題は Road Safety(交通安全)、Occupational Safety(職業安全)、Sports and Leisure Safety(運動と余暇安全)、Home and Institutional Safety(家庭と施設安全)、Product Safety(製品安全)、Suicide Prevention(自殺予防)、Violence Prevention(暴力防止)、Post-Trauma Care and Rehabilitation(心的外傷と社会復帰)、Cross-Disciplinary Times(学際的な課題)の3つに分類され、それぞれに専門的かつ慎重な討議がなされていた。

第七回大会のウイーンからは、大会名に Safety Promotion という単語が付加された。これは Health Promotion の大きな概念の中に、健康を脅かす重大な要因である事故防止や安全防止や安全対策・安全教育を取り入れ、公衆衛生上の大きな問題として事故防止を取り扱おうとする流れである。

この背景の下、安全な地域社会作りや環境整備、自分で自分の身を守るための教育、危機管理などに関する講演や1,900を越える抄録が本大会で討論された。

また、第六回大会の9分類から多少

変更があり、Road Safety(交通安全)、Child Safety(子どもの安全)などや、Violence Prevention(暴力防止)、Cross-Sectoral(横断的研究)、Work Safety and Health(職業安全)、Trauma Disaster Civil Protection Terrorism(心的外傷、災害、住民保護、テロリズム)、Sports Leisure Safety(スポーツ、余暇時の安全)、Suicide Prevention(自殺予防)、Elder Safety(高齢者安全)、Home & Institutional Safety(家庭内、公共の場での安全)、Product Safety(製品安全)の11に分類された内容で研究討論、意見・情報交換が行われた。

第八回大会は南アフリカのダーバンにて2006年4月に開催される予定である、

この大会では、前回の内容に加え、事故の研究調査方法やそのコスト、事故に関する法令・条例、トラウマや外傷のリハビリテーション、地域安全・学校安全などの検討がなされるようである。

(まとめ)

1989年に国際事故防止会議が開催されてから17年が経つ。その間に世界各所で計7回の会議が開催され、年を追って参加者・演題数が増加し、最新のデータや調査研究方法、事故防止の新しい取り組みやプログラムなどが、さまざまな角度から討論され、世界規模のネットワークと調査研究体制が構築されてきた。

今年の4月に南アフリカ・ダーバンで開催される第八回大会でも、世界各国からの参加者がさまざまな演題を討論し、事故防止に関する最新情報を交換しあい、各国々の現状に見合った事

故防止策を討議・検討する予定である。

国際事故防止会議は世界規模で事故防止を話し合う場としての大きな役割を担い、今後とも回を重ねるごとに、充実した会議となることを期待している。

参考文献：

- 1) 厚生労働省大臣官房統計情報部；平成 16 年人口動態統計。2005.
- 2) World Health Organization: Accidents in child. Facts as a basis for prevention. Report of an Advisory Group.

Technical Report series 118.

- 3) MANIFESTO FOR SAFE COMMUNITIES : Safety-A Universal Concern and Responsibility for ALL. Adopted in Stockholm 20 September. 1989.
- 4) 田中哲郎・杉山太幹訳：事故防止対策の課題 米国事故防止対策委員会。日本公衆衛生協会。1994.

(内山 有子・加藤 則子)

4. 参考文献

- (1) 「小児の事故」：田中哲郎. 小児保健研究 61(2). 2002.
- (2) 「小児の誤飲・事故を防ぐ本」：山中龍宏. 三省堂. 1999.
- (3) 「小児の事故防止」：山中龍宏, 小児内科 32. 2000.
- (4) 「事故のサーベイランス」：山中龍宏. 小児科臨床 51. 1998.0
- (5) 「チャイルドシート使用状況全国調査」：警察庁・日本自動車連盟. 2002.
- (6) 「世界の育児事情」：南里誠一郎. 周産期医学 32 増刊号. 2002.
- (7) 「統計で見る子どもの10年(1990-2000)」：日本ユニセフ協会. 2002.
- (8) 「国際保健の現場から. これからの医療」：中村安秀. 横浜市立大学. 1996.
- (9) 「育児の事典」：平山宗宏他編. 朝倉書店. 2005.
- (10) 「小児保健実習」：加藤翠編著. 朝倉書店. 1989.
- (11) 「人口問題研究」第 60 卷 1 号：国立社会保障・人口問題研究所. 厚生統計協会, 2005. 4.
- (12) 防犯・防災関係データ集：日本能率協会総合研究所. 2005. 1
- (13) 「防災管理者講習テキスト」：防災管理研究会. 近代消防社. 2003. 10.
- (14) 「児童福祉六法」：児童福祉法規研究会監修. 中央法規出版. 2003. 11.
- (15) 「変革次代の教育をさぐる—学校・家庭・地域における教育の課題と展望—」：小沢薫／佐藤三三／村山正明. 東信堂. 2003. 12.
- (16) 「社会福祉行政業務報告—福祉行政報告例—」：厚生労働省官房統計情報部. 厚生統計協会, 2003. 12.
- (17) 「犯罪白書—変貌する凶悪犯罪とその対策—」：法務省法務総合研究所. 国立印刷局, 2003. 12.
- (18) 「第 5 次改訂 学校保健安全法令必携」：学校健康教育法令研究会監修. ぎょうせい. 2004. 2.
- (19) 「社会福祉施設等調査報告」：厚生労働省官房統計情報部. 厚生統計協会. 2004. 2.
- (20) 「地域社会における学校の拠点性」：酒川茂. 古今書院. 2004. 2.
- (21) 「安全・安心の基礎知識」：全国危険物安全協会. ダイヤモンド社, 2004. 3.
- (22) 「子育てしやすい社会—保育・家庭・職場をめぐる育児支援策—」：前田正子. ミネルヴァ書房. 2004. 4.
- (23) 「第 2 回 21 世紀出生児縦断調査」：厚生労働省官房統計情報部. 厚生統計協会. 2004. 5.
- (24) 「人口問題研究」第 60 卷 2 号：国立社会保障・人口問題研究所. 厚生統計協会, 2005. 4.
- (25) 「女性労働白書—働く女性の実情—」：厚生労働省雇用均等・児童家庭局. 21 世紀職業財団. 2004. 5.
- (26) 「地域保健医療基礎統計」：厚生労働省官房統計情報部. 厚生統計協会. 2004. 5.
- (27) 「世帯にみる女性の就業—国民生活基礎調査特殊報告—」：厚生労働省官房統計情報部. 厚生統計協会. 2004. 5.
- (28) 「労政時報別冊 福利厚生事情」：労務行政研究所, 労務行政. 2004. 7.

- (29) 「危機管理・セキュリティ用語事典」：大泉常長／大泉陽一. 立花書房. 2004. 7.
- (30) 「第四次全訂 新学校管理読本」：学校管理運営法令研究会. 第一法規. 2004. 9.
- (31) 「改訂 保育所運営マニュアル—新時代の保育サービスと子育て支援—」：栢尾勲／迫田圭子編集, 中央法規出版. 2004. 9.
- (32) 詫間 晋平：「地域における児童の危機管理に関する調査研究」(『平成 14 年度児童環境づくり等総合調査研究事業報告書』こども未来財団. 2003 年 3 月.)¹⁾
- (33) 詫間 晋平：「学校保健管理 — 地域におけるリスク管理の観点から — 」
(『保健医療科学』第 53 卷 第 2 号 97 - 102. 2004 年.)
- (34) 詫間 晋平：「地域におけるリスク管理 — 子どもの犯罪・事故回避 — 」
(『こども未来』誌 (特集 子どもの安全を守るために) 2005 年. 2 - 5.)
- (35) 詫間 晋平：「子どもの危機管理の実態とこれからの安全対策について」
(『チャイルドヘルス』誌、No.81. 2005 年. 41 - 50.)
- (36) 「家政学用語集：日本家政学会編 1987.
- (37) 「児童健全育成ハンドブック」：中央法規出版. 2005.
- (38) 「個人情報保護の実務と漏洩防止策のすべて」：鈴木靖他. 日本実業出版社. 2005.
- (39) 「学校事故対策マニュアル」：松本美代子. 明石書店. 2005.

(物部 博文・柴若 光昭)

票 查 調
&
表 計 集

子どもの事故と犯罪の回避に関する意見調査

<保護者用>

平成 17 年 10 月

子どもの事故回避総合研究会
(研究代表者 詫間 晋平)

この調査は、地域における子どもに係わる事故と犯罪の実態を具体的に把握し、それに対する回避と安全対策について考察するための資料として、保護者の皆様におたずねするものです。調査の結果は、すべて統計的に数値としてまとめられますので、ご回答の内容や結果で、皆様にご迷惑をおかけすることは絶対にありません。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

< 記入上のお願い >

- ・各質問の当てはまる項目の番号に○をつけてください。回答にさしつかえがある質問は空欄にしてください。
- ・各質問の () の中には、文字や数字でお答えください。

問 1. お子さん (小学生以下の子が 2 人以上の場合は年長者) が、かよっている施設の番号に○をつけてください。

- | | | | | |
|------------|----------|-----------|--------|-------------|
| 1. 児童館 | 2. 認可保育所 | 3. 無認可保育所 | 4. 幼稚園 | 5. 放課後児童クラブ |
| 6. その他 () | | | | |

問 2. お子さんの性別・年齢は? (1) 性別

1. 男	2. 女
------	------

 (2) 年齢

() 歳

問 3. お子さんがかよっている 施設の所在地は?

- | | | | | | | | |
|-------|-----------|-------|-------|---------|-------|-------|------------|
| 1. 岡山 | 2. 成田・木更津 | 3. 船橋 | 4. 豊田 | 5. 岐阜・関 | 6. 横浜 | 7. 東京 | 8. その他 () |
|-------|-----------|-------|-------|---------|-------|-------|------------|

問 4. お子さんがかよっている施設に來ている他の子どもの年齢・学齢等の番号にすべて○をつけてください。

- | | | | | |
|------------|------------|--------------|----------|------------|
| 1. 3 歳児未満 | 2. 4 歳児 | 3. 5 歳児 | 4. 6 歳児 | 5. 小学 1 年生 |
| 6. 小学 2 年生 | 7. 小学 3 年生 | 8. 小学 4 年生以上 | 9. わからない | |

問 5. お子さんがかよっている施設の総職員数は? →

() 人

問 6. お子さんがかよっている施設の周囲の環境について、次の中で一番近い番号に○をつけてください。

- | | | |
|----------------------|----------------|------------------|
| 1. 人通りがにぎやかな所 (商店街等) | 2. 閑静な所 (住宅街等) | 3. 周りに住宅や建物が少ない所 |
| 4. 騒音などが多い所 (工場地帯等) | 5. その他 () | |

問 7. この 1 年間 (本年 11 月末日迄の間)、おさんは、かよっている施設での事故で、1 回以上病院などに通院や入院をしたことがありますか。(あてはまる番号にすべて○をつけ、それぞれの合計日数もお答えください。)

- | | |
|---------------------------------|---------|
| 1. 1 回以上の通院があった → 合計の通院回数 () 回 | |
| 2. 入院があった → 合計の入院日数 () 日 | 3. なかった |

問 8. 他の子どもの事故も含めて、事故の後で改善がされたことがありましたらお知らせください。

問9. 病院などにかかった、大きい事故について、次の(1)～(12)の質問にそれぞれお答えください。

(1) 事故の種類 (あてはまる番号にすべて○をつけてください。)

1. 転落した (落ちた)	2. 転倒した (ころんだ)	3. 人や物にぶつかった
4. 物に指や体をはさまれた	5. 物が倒れてきた	6. 上から物が落ちてきた
7. 自分で刃物でケガをした	8. ガラスなどでケガをした	9. やけどをした
10. 物をのどにつまらせた	11. 異物や薬品を誤って飲んだ	12. けんかや暴力でケガをした
13. 水におぼれた	14. 虫さされ、動物にかまれた	15. 毒物のかぶれ・中毒になった
16. 熱中症になった	17. 交通事故にあった	18. 感電した
19. その他 () 20. あてはまることなし

(2) 傷害の内容 (あてはまる番号にすべて○をつけてください。)

1. 打撲 (うちみ)	2. 突指・ねんざ (捻挫)	3. 脱臼・関節ずれ	4. 骨折
5. すり傷・切り傷	6. 切断・欠損	7. 出血	8. 内出血
9. 火傷	10. 中毒	11. 炎症	12. 発熱
13. 脱水	14. 脳しんとう	15. 意識障害	16. 結膜炎
17. 凍傷	18. その他 ()	19. あてはまることなし

(3) 傷を負った部位 (あてはまる番号にすべて○をつけてください。)

1. 頭	2. 顔	3. 眼	4. 耳	5. 鼻	6. 口
7. 指・手・腕	8. 足	9. 胸部	10. 腹部	11. 背中	12. 尻
13. 内臓	14. その他 ()	15. あてはまることなし		

(4) 事故が起こった場所 (あてはまる番号にすべて○をつけてください。)

1. 建設中の屋内	2. 建設中の屋外	3. 施設外 ()	4. あてはまることなし
-----------	-----------	----------	---	--------------

(5) 事故の時に使用していた遊具 (あてはまる番号にすべて○をつけてください。)

1. ジャングルジム	2. 滑り台	3. 普通のブランコ	4. 鉄棒
5. うんてい (雲梯)	6. 登り棒	7. ろくぼく (肋木)	8. シーソー
9. タイヤ	10. つきやま (築山)	11. サッカーゴール	12. ターザン
13. 砂場	14. その他 ()	15. あてはまることなし

(6) 事故があった曜日と回数 (あてはまる曜日の番号にすべて○をつけ、その回数をご記入ください。)

1. 月曜日 () 回	2. 火曜日 () 回	3. 水曜日 () 回	4. 木曜日 () 回
5. 金曜日 () 回	6. 土曜日 () 回	7. 日曜日 () 回	8. 学校休業日 () 回
9. あてはまることなし			(例:)

(7) 事故があった時間帯 (あてはまる番号にすべて○をつけてください。)

1. 午前中	2. 12時台	3. 13時台	4. 14時台	5. 15時台
6. 16時台	7. 17時過ぎ	8. わからない	9. あてはまることなし	

(8) 事故があった時の天候 (あてはまる番号にすべて○をつけてください。)

1. 晴れ	2. 曇り	3. 雨	4. 雪	5. わからない	6. あてはまることなし
-------	-------	------	------	----------	--------------

(9) 事故を未然に防止できる可能性についてどう思われますか?

1. 可能性があった	2. 可能性はなかった	3. わからない	4. その他 ()
------------	-------------	----------	----------	---

(10) あなたのお子さんはケガなどが多いほうだと思いますか？

- | | | | |
|---------|-------|----------|--------------|
| 1. 多いほう | 2. 普通 | 3. 少ないほう | 4. あてはまることなし |
|---------|-------|----------|--------------|

問 10. ふだん、お子さんが事故や犯罪にあうかもしれないという不安を、どの程度感じておられますか？

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 1. 非常に感じている | 2. 漠然と感じている | 3. あまり感じていない |
|-------------|-------------|--------------|

問 11. この1年間（本年11月末日迄の間）、かよっている施設内、その施設にかよう途中などで、不審な人から声をかけられる、身体にさわられるなど、お子さんが怖い思いや身の危険を感じたことがありますか？

- | | |
|-----------------|---------|
| 1. あった → 回数（ ）回 | 2. なかった |
|-----------------|---------|

問 12. この1年間（本年11月末日迄の間）、お子さんが怖い思いや身の危険を感じたことはどんなことですか。

--

問 13. 子どもを犯罪から守るための『いかのおすし』という言葉についてご存知ですか？

- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1. よく知っている | 2. 名前を知っている | 3. わからない |
|------------|-------------|----------|

問 14. 身の危険を感じた時に助けを求める具体的な方法で、教えておられることにすべて○をつけてください。

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 大声を出す | 2. 「子ども110番」などの場所を教えている |
| 3. 防犯グッズ等を持たせている | 4. 知らない人について行かない |
| 5. その他（ | ） 6. 特に教えていない |

問 15. 子どもを犯罪から守るため、学校や地域での活動に参加されたことがありますか？

- | | | | |
|--------------|---|------------|----------|
| 1. 参加した（具体的に | ） | 2. 参加しなかった | 3. 活動はない |
|--------------|---|------------|----------|

問 16. 次の（1）～（2）は、あなたのお子さんに聞いてご記入ください。（2人以上の場合は年上の子に聞く）

（1）通っている施設での生活について①～⑧に「はい」「いいえ」でお答えください。（お子さんに聞いてください。）

- | | | | | |
|--------------------|-------|-------|--------|-----------|
| ① 毎日友だちと楽しく遊んでいる | _____ | 1. はい | 2. いいえ | |
| ② 宿題をすることもできる | _____ | 1. はい | 2. いいえ | |
| ③ おやつが楽しみ | _____ | 1. はい | 2. いいえ | 3. おやつはない |
| ④ クラブの先生も一緒に遊んでくれる | _____ | 1. はい | 2. いいえ | |
| ⑤ 部屋の中がいつも騒々しい | _____ | 1. はい | 2. いいえ | |
| ⑥ 好きなことができない | _____ | 1. はい | 2. いいえ | |
| ⑦ 行きたくないと思うこともある | _____ | 1. はい | 2. いいえ | |
| ⑧ 部屋が狭い | _____ | 1. はい | 2. いいえ | |

（2）好きな遊具をすべてあげてください。（お子さんに聞いて、あてはまる番号にすべて○をつけてください）

- | | | | |
|-------------|--------------|---------------|---------|
| 1. ジャングルジム | 2. 滑り台 | 3. 普通のブランコ | 4. 鉄棒 |
| 5. うんてい（雲梯） | 6. 登り棒 | 7. ろくぼく（肋木） | 8. シーソー |
| 9. タイヤ | 10. つきやま（築山） | 11. ターザン | 12. 砂場 |
| 13. その他（ | ） | 14. あてはまることなし | |

問 17. かよっている施設での子どもが遊ぶ部屋の広さはどのくらいですか？ →

約（ ）㎡

※（3.3平方メートルは1坪＝2畳）

問 18. お子さんのかよっている施設、衛生、生活指導、安全面について、どの程度満足しておられますか？

- | | | | |
|----------------|---------|-------|---------------|
| (1) 施設面について—— | 1. ほぼ満足 | 2. 普通 | 3. 改善点がある () |
| (2) 衛生面について—— | 1. ほぼ満足 | 2. 普通 | 3. 改善点がある () |
| (3) 生活指導面について— | 1. ほぼ満足 | 2. 普通 | 3. 改善点がある () |
| (4) 安全面について—— | 1. ほぼ満足 | 2. 普通 | 3. 改善点がある () |

問 19. お子さんを健全に育成する環境について、保護者として日ごろから不安を感じたり、心配しておられることがありますか？ あてはまる番号にすべて○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. すぐにかかれる病院や診療所が近くにない |
| 2. 自分の仕事に子どもがケガをしても、仕事を抜けることがむずかしい |
| 3. 子どもが事故にあった時に、いつでも頼れる友人等が近くにいない |
| 4. 子どもがケガをしやすい傾向がみられる |
| 5. 施設（「放課後児童クラブ」内、学校や「放課後児童クラブ」にかよう途中）等に危険な場所がある |
| 6. 親として簡単な応急処置のやり方をよくわかっていない |
| 7. 親子で遊べる屋内施設の充実をはかりたい（はかって欲しい） |
| 8. その他 →（具体的に： _____） |

問 20. あなたは、お仕事をしておられますか？ 一番近い仕事の番号に○をつけて下さい

- | | | |
|-------------------------|-----------------|-----------------|
| 1. フルタイムの仕事 | 2. パートタイムの仕事 | 3. 自営業（自営手伝い含む） |
| 4. 仕事をしていない（いわゆる専業主婦含む） | 5. その他（ _____ ） | |

問 21. あなたの性別、年代をお知らせください。

- | | | | | | | | | | |
|--------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|
| (1) 性別 | 1. 男性 | 2. 女性 | | | | | | | |
| (2) 年齢 | 1. 24歳以下 | 2. 25～29歳 | 3. 30～34歳 | 4. 35～39歳 | 5. 40～44歳 | 6. 45～49歳 | 7. 50～54歳 | 8. 55～59歳 | 9. 60歳以上 |

問 22. お子さんから見た、同居家族の方にすべて○をつけてください。

- | | |
|-------------|------------------------------|
| 1. 祖父・祖母がいる | 2. 兄弟・姉妹がいる → 何人兄弟ですか？ () 人 |
|-------------|------------------------------|

問 23. かよっている施設のことで、お困りになった（なっている）ことは、どんなことでもお知らせください。

--

ご協力誠にありがとうございました。

※お答えいただいた内容につきまして、ご確認させていただく場合がございます。

もし、さしつかえがなければ、ご連絡先をご記入ください。

お電話番号 _____ （内線等 _____）

お電話させていただく場合のご都合のよい時間（ _____ 時ごろ）

全地区 合計

問1. 子ども(年長)が通っている施設

問2. 1 子ども性別

問2. 2 子どもの年齢

対象地区	合計		認可保育所		無認可保育所		幼稚園	放課後児童クラブ	その他	合計		男		女		合計	3歳児以下	4歳児	5歳児	6歳児	7歳児(1年生)	8歳児(2年生)	9歳児(3年生)	10歳児(4年生以上)
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合				施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合									
合計	503	100.0	15	3.0	0	0.0	282	35	7.0	24	4.8	503	256	247	503	53	92	147	144	23	8	17	19	
中部地区	432	100.0	4	0.9	0	0.0	276	1	0.2	4	0.9	432	224	208	432	53	91	144	136	3	1	1	3	
篠山地区	14	100.0	10	71.4	0	0.0	3	0	0.0	1	7.1	14	6	8	14	0	0	1	2	0	1	3	7	
静岡地区	21	100.0	0	0.0	0	0.0	2	0	0.0	19	90.5	21	7	14	21	0	0	2	0	1	1	8	9	
東京地区	36	100.0	1	2.8	0	0.0	1	34	94.4	0	0.0	36	19	17	36	0	1	0	6	19	5	5	0	

対象施設

施設	合計		認可保育所		無認可保育所		幼稚園	放課後児童クラブ	その他	合計		男		女		合計	3歳児以下	4歳児	5歳児	6歳児	7歳児(1年生)	8歳児(2年生)	9歳児(3年生)	10歳児(4年生以上)
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合				施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合									
幼稚園	279	100.0	2	0.7	0	0.0	275	0	0.0	2	0.7	279	146	133	279	28	53	103	90	2	0	1	2	
保育園	153	100.0	2	1.3	0	0.0	151	1	0.7	2	1.3	153	78	75	153	25	38	41	46	1	1	0	1	
児童館・児童クラブ	71	100.0	11	15.5	0	0.0	6	34	47.9	20	28.2	71	32	39	71	0	1	3	8	20	7	16	16	

問2. 1 子どもの性別

性別	合計		認可保育所		無認可保育所		幼稚園	放課後児童クラブ	その他	合計		男		女		合計	3歳児以下	4歳児	5歳児	6歳児	7歳児(1年生)	8歳児(2年生)	9歳児(3年生)	10歳児(4年生以上)
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合				施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合									
男	256	100.0	8	3.1	0	0.0	146	18	7.0	9	3.5	256	146	110	256	27	49	82	68	13	2	4	11	
女	247	100.0	7	2.8	0	0.0	136	17	6.9	15	6.1	247	110	137	247	26	43	65	76	10	6	13	8	

問2. 2 子どもの年齢

年齢	合計		認可保育所		無認可保育所		幼稚園	放課後児童クラブ	その他	合計		男		女		合計	3歳児以下	4歳児	5歳児	6歳児	7歳児(1年生)	8歳児(2年生)	9歳児(3年生)	10歳児(4年生以上)
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合				施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合									
3歳児以下	53	100.0	2	3.8	0	0.0	29	0	0.0	0	0.0	53	27	26	53	53	0	0	0	0	0	0	0	0
4歳児	92	100.0	0	0.0	0	0.0	54	0	0.0	0	0.0	92	49	43	92	0	92	0	0	0	0	0	0	0
5歳児	147	100.0	0	0.0	0	0.0	106	0	0.0	0	0.0	147	82	65	147	0	0	147	0	0	0	0	0	0
6歳児	144	100.0	0	0.0	0	0.0	92	6	4.2	0	0.0	144	68	76	144	0	0	0	144	0	0	0	0	0
7歳児(1年生)	23	100.0	2	8.7	0	0.0	4	19	82.6	1	4.3	23	13	10	23	0	0	0	23	0	0	0	0	0
8歳児(2年生)	8	100.0	0	0.0	0	0.0	0	5	62.5	3	37.5	8	2	6	8	0	0	0	0	0	8	0	0	0
9歳児(3年生)	17	100.0	3	17.6	0	0.0	0	5	29.4	9	52.9	17	4	13	17	0	0	0	0	0	0	0	17	0
10歳児(4年生以上)	19	100.0	8	42.1	0	0.0	0	0	0.0	11	57.9	19	11	8	19	0	0	0	0	0	0	0	0	19

全地区 合計

問4. 通所の子どもの年齢

問6. 施設の周囲の環境

	合計	3歳児未満	4歳児	5歳児	6歳児	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生以上	わからない	合計	商店街等	住宅街等	なやましい場所や建物が少ない	工場・地帯等	その他	無回答
対象地区																	
合計	503 100.0	338 67.2	429 85.3	424 84.3	426 84.7	73 14.5	70 13.9	70 13.9	39 7.8	1 0.2	503 100.0	30 6.0	256 50.9	85 16.9	7 1.4	83 16.5	42 8.3
中部地区	432 100.0	328 75.9	414 95.8	408 94.4	411 95.1	11 2.5	8 1.9	8 1.9	7 1.6	0 0.0	432 100.0	16 3.7	219 50.7	80 18.5	6 1.4	74 17.1	37 8.6
篠山地区	14 100.0	6 42.9	9 64.3	10 71.4	9 64.3	8 57.1	8 57.1	8 57.1	10 71.4	1 7.1	14 100.0	1 7.1	9 64.3	2 14.3	0 0.0	0 0.0	2 14.3
静岡地区	21 100.0	2 9.5	3 14.3	3 14.3	3 14.3	19 90.5	19 90.5	19 90.5	19 90.5	0 0.0	21 100.0	12 57.1	4 19.0	1 4.8	1 4.8	1 4.8	2 9.5
東京地区	36 100.0	2 5.6	3 8.3	3 8.3	3 8.3	35 97.2	35 97.2	35 97.2	3 8.3	0 0.0	36 100.0	1 2.8	24 66.7	2 5.6	0 0.0	8 22.2	1 2.8

対象施設

	合計	3歳児未満	4歳児	5歳児	6歳児	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生以上	わからない	合計	商店街等	住宅街等	なやましい場所や建物が少ない	工場・地帯等	その他	無回答
幼稚園	279 100.0	186 66.7	270 96.8	267 95.7	267 95.7	6 2.2	5 1.8	4 1.4	5 1.8	0 0.0	279 100.0	12 4.3	125 44.8	47 16.8	5 1.8	61 21.9	29 10.4
保育園	153 100.0	142 92.8	144 94.1	141 92.2	144 94.1	5 3.3	3 2.0	4 2.6	2 1.3	0 0.0	153 100.0	4 2.6	94 61.4	33 21.6	1 0.7	13 8.5	8 5.2
児童館・児童クラブ	71 100.0	10 14.1	15 21.1	16 22.5	15 21.1	62 87.3	62 87.3	62 87.3	32 45.1	1 1.4	71 100.0	14 19.7	37 52.1	5 7.0	1 1.4	9 12.7	5 7.0

問2. 1 子どもの性別

	男	女
合計	256 100.0	247 100.0
3歳児以下	53 100.0	53 100.0
4歳児	92 100.0	92 100.0
5歳児	147 100.0	147 100.0
6歳児	144 100.0	144 100.0
7歳児 (1年生)	23 100.0	23 100.0
8歳児 (2年生)	8 100.0	8 100.0
9歳児 (3年生)	17 100.0	17 100.0
10歳児 (4年生以上)	19 100.0	19 100.0

問2. 2 子どもの年齢

	3歳児以下	4歳児	5歳児	6歳児	7歳児 (1年生)	8歳児 (2年生)	9歳児 (3年生)	10歳児 (4年生以上)
合計	53 100.0	92 100.0	147 100.0	144 100.0	23 100.0	8 100.0	17 100.0	19 100.0
3歳児以下	53 100.0	53 100.0	53 100.0	53 100.0	53 100.0	53 100.0	53 100.0	53 100.0
4歳児	0	92 100.0	92 100.0	92 100.0	92 100.0	92 100.0	92 100.0	92 100.0
5歳児	0	0	147 100.0	147 100.0	147 100.0	147 100.0	147 100.0	147 100.0
6歳児	0	0	0	144 100.0	144 100.0	144 100.0	144 100.0	144 100.0
7歳児 (1年生)	0	0	0	0	23 100.0	23 100.0	23 100.0	23 100.0
8歳児 (2年生)	0	0	0	0	0	8 100.0	8 100.0	8 100.0
9歳児 (3年生)	0	0	0	0	0	0	17 100.0	17 100.0
10歳児 (4年生以上)	0	0	0	0	0	0	0	19 100.0

子どもの事故と犯罪の回避に関する意見調査 (H17年度)

全地区 合計 問7. この1年間の事故での通院・入院有無 問7. 1通院回数

	合計	1回以上通院があった	入院があった	なかった	合計	平均
対象地区	503	53	1	450	52	3.5
合計	100.0	10.5	0.2	89.5	100.0	
中部地区	432	46	1	386	45	3.2
	100.0	10.6	0.2	89.4	86.5	
篠山地区	14	0	0	14	0	0.0
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
静岡地区	21	3	0	18	3	2.3
	100.0	14.3	0.0	85.7	5.8	
東京地区	36	4	0	32	4	7.8
	100.0	11.1	0.0	88.9	7.7	
対象施設						
幼稚園	279	33	0	246	33	3.3
	100.0	11.8	0.0	88.2	63.5	
保育園	153	13	1	140	12	3.0
	100.0	8.5	0.7	91.5	23.1	
児童館・児童クラブ	71	7	0	64	7	5.4
	100.0	9.9	0.0	90.1	13.5	
問2. 1 子どもの性別						
男	256	29	1	227	28	4.0
	100.0	11.3	0.4	88.7	53.8	
女	247	24	0	223	24	3.0
	100.0	9.7	0.0	90.3	46.2	
問2. 2 子どもの年齢						
3歳児以下	53	6	0	47	6	1.3
	100.0	11.3	0.0	88.7	11.5	
4歳児	92	8	0	84	7	3.6
	100.0	8.7	0.0	91.3	13.5	
5歳児	147	17	1	130	17	2.5
	100.0	11.6	0.7	88.4	32.7	
6歳児	144	13	0	131	13	4.8
	100.0	9.0	0.0	91.0	25.0	
7歳児 (1年生)	23	3	0	20	3	9.7
	100.0	13.0	0.0	87.0	5.8	
8歳児 (2年生)	8	0	0	8	0	0.0
	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
9歳児 (3年生)	17	4	0	13	4	3.0
	100.0	23.5	0.0	76.5	7.7	
10歳児 (4年生以上)	19	2	0	17	2	1.5
	100.0	10.5	0.0	89.5	3.8	

子どもの事故と犯罪の回避に関する意見調査 (H17年度)

問9.1 事故の種類

全地区 合計

対象地区	合計	転落した (落ちた)	転倒した (ころんだ)	人や物にぶつかった	物に指や体をはさまれた	物が倒れてきた	上から物が落ちてきた	自分で刃物でケガをした	たがラスなどでケガをした	やけどをした	物をのどにつまらせた	んだ異物や薬品を誤って飲	しけんかや暴力でケガを	水におぼれた	虫さされ、動物にかま	な毒物のかぶれ・中毒に	熱中症になった	交通事故にあった	感電した	その他	あてはまることなし	無回答
対象地区	503	21	65	46	13	0	1	4	3	5	1	1	7	0	13	0	2	2	0	4	356	1
合計	100.0	4.2	12.9	9.1	2.6	0.0	0.2	0.8	0.6	1.0	0.2	0.2	1.4	0.0	2.6	0.0	0.4	0.0	0.8	70.8	0.2	
中部地区	432	21	57	40	12	0	1	4	1	5	0	1	4	0	11	0	2	1	0	4	302	1
合計	100.0	4.9	13.2	9.3	2.8	0.0	0.2	0.9	0.2	1.2	0.0	0.2	0.9	0.0	2.5	0.0	0.5	0.2	0.0	0.9	69.9	0.2
篠山地区	14	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0
合計	100.0	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	78.6	0.0
静岡地区	21	0	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	14	0
合計	100.0	0.0	23.8	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	66.7	0.0
東京地区	36	0	2	3	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	29	0
合計	100.0	0.0	5.6	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.6	0.0

対象施設

施設	合計	転落した (落ちた)	転倒した (ころんだ)	人や物にぶつかった	物に指や体をはさまれた	物が倒れてきた	上から物が落ちてきた	自分で刃物でケガをした	たがラスなどでケガをした	やけどをした	物をのどにつまらせた	んだ異物や薬品を誤って飲	しけんかや暴力でケガを	水におぼれた	虫さされ、動物にかま	な毒物のかぶれ・中毒に	熱中症になった	交通事故にあった	感電した	その他	あてはまることなし	無回答
幼稚園	279	14	39	24	7	0	0	3	1	2	0	0	3	0	9	0	2	1	0	3	192	1
合計	100.0	5.0	14.0	8.6	2.5	0.0	0.0	1.1	0.4	0.7	0.0	0.0	1.1	0.0	3.2	0.0	0.7	0.4	0.0	1.1	68.8	0.4
保育園	153	7	18	16	5	0	1	1	0	3	0	1	1	0	2	0	0	0	0	1	110	0
合計	100.0	4.6	11.8	10.5	3.3	0.0	0.7	0.7	0.0	2.0	0.0	0.7	0.7	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	71.9	0.0
児童館・児童クラブ	71	0	8	6	1	0	0	0	2	0	1	0	3	0	2	0	0	1	0	0	54	0
合計	100.0	0.0	11.3	8.5	1.4	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	1.4	0.0	4.2	0.0	2.8	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	76.1	0.0

問2.1 子どもの性別

性別	合計	転落した (落ちた)	転倒した (ころんだ)	人や物にぶつかった	物に指や体をはさまれた	物が倒れてきた	上から物が落ちてきた	自分で刃物でケガをした	たがラスなどでケガをした	やけどをした	物をのどにつまらせた	んだ異物や薬品を誤って飲	しけんかや暴力でケガを	水におぼれた	虫さされ、動物にかま	な毒物のかぶれ・中毒に	熱中症になった	交通事故にあった	感電した	その他	あてはまることなし	無回答
男	256	12	33	24	7	0	0	3	1	4	0	1	2	0	8	0	1	2	0	2	179	0
合計	100.0	4.7	12.9	9.4	2.7	0.0	0.0	1.2	0.4	1.6	0.0	0.4	0.8	0.0	3.1	0.0	0.4	0.8	0.0	0.8	69.9	0.0
女	247	9	32	22	6	0	1	1	2	1	1	0	5	0	5	0	1	0	0	2	177	1
合計	100.0	3.6	13.0	8.9	2.4	0.0	0.4	0.4	0.8	0.4	0.4	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.8	71.7	0.4

問2.2 子どもの年齢

年齢	合計	転落した (落ちた)	転倒した (ころんだ)	人や物にぶつかった	物に指や体をはさまれた	物が倒れてきた	上から物が落ちてきた	自分で刃物でケガをした	たがラスなどでケガをした	やけどをした	物をのどにつまらせた	んだ異物や薬品を誤って飲	しけんかや暴力でケガを	水におぼれた	虫さされ、動物にかま	な毒物のかぶれ・中毒に	熱中症になった	交通事故にあった	感電した	その他	あてはまることなし	無回答
3歳児以下	53	3	6	3	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	42	0
合計	100.0	5.7	11.3	5.7	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	79.2	0.0
4歳児	92	3	11	6	4	0	0	1	0	1	0	1	1	0	6	0	1	1	0	1	60	1
合計	100.0	3.3	12.0	6.5	4.3	0.0	0.0	1.1	0.0	1.1	0.0	1.1	1.1	0.0	6.5	0.0	1.1	1.1	0.0	1.1	65.2	1.1
5歳児	147	10	22	19	5	0	1	1	0	2	0	0	3	0	4	0	0	0	0	1	96	0
合計	100.0	6.8	15.0	12.9	3.4	0.0	0.7	0.7	0.0	1.4	0.0	0.0	2.0	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	65.3	0.0
6歳児	144	4	18	12	3	0	0	2	1	1	0	0	1	0	3	0	1	0	0	1	107	0
合計	100.0	2.8	12.5	8.3	2.1	0.0	0.0	1.4	0.7	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0	2.1	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	74.3	0.0
7歳児 (1年生)	23	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0
合計	100.0	4.3	0.0	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	87.0	0.0
8歳児 (2年生)	8	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	0
合計	100.0	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0
9歳児 (3年生)	17	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	13	0
合計	100.0	0.0	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	76.5	0.0
10歳児 (4年生以上)	19	0	5	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	12	0
合計	100.0	0.0	26.3	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	63.2	0.0